

●TRICON 2018 学会レポート

第2回 Tri-continental Scientific Conference として、EUBS (European Underwater and Baromedical Society), SPUMS (South Pacific Underwater Medicine Society), SAUHMA (Southern African Underwater and Hyperbaric Medical Association) の共催で、TRICON2018 が 2018 年 9 月 23 日から 29 日に南アフリカ共和国の Durban で行われました。



【プログラム構成】

以前のレポートで紹介したように、SPUMS は南太平洋地域を中心に活動しており、UHMS に比較してより潜水を重視した学会です。その影響もあってか、TRICON2018 のプログラム構成も独特であり、学会期間が 7 日間と長く、且つその中の 3 日間は workshop として、小グループに分かれてダイビングが行われました。

【概要】

口演が高気圧医学関連 30 題、潜水医学関連 29 題、ポスターは両者を併せて 22 題、他に招請講演などから構成されたプログラムでした。潜水を中心に述べると、軍のダイバー及び潜水艦乗員の健診における胸部レントゲンの必要性（結核蔓延国では推奨される）(Davids LR)、南極での調査ダイビングのメディカルサポート経験 (David R Smart)、英国での糖尿病のコントロール基準を満たして登録されたダイバーの調査（15 年以上の間、重大な事故が生じていない）(Chris Edge)、 β ブロッカーが潜水による浸漬性肺水腫のリスクファクターである可能性 (Igor Barkovic)、自然気胸に対する最新の外科的処置後の潜水適性について見直しの可能性 (Peter Germonpre) 等興味深い発表が行われました。

【インターナショナル DAN 会議】

第 1 回合同学会同様、学会期間に合わせて、インターナショナル DAN 会議が開催されました。DAN America、DAN Asia-Pacific、DAN Europe、DAN JAPAN、DAN Southern Africa の 5 組織で構成されており、潜水の安全性向上への取り組み、リサーチ、緊急ホットラインなどについて、情報共有・交換がなされました。（一財）日本海洋レジャー安全・振興協会（DAN JAPAN）からは平田友一常務理事、小島朗子 DAN JAPAN 事務局長、小島泰史医師（東京医科歯科大学医学部附属病院高気圧治療部）が出席しました。